

大磯町では、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「平成 30 年度全国学力・学習状況調査」を平成 30 年 4 月 17 日（火）に実施しました。

本調査は、小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年の全児童生徒を対象としたもので、大磯町は小学生 244 名、中学生 237 名が参加しました。（※児童自立支援施設おおいそ学園内にある大磯町立国府小・中学校生沢分校に在籍する児童・生徒も含む。）

平成 30 年 7 月 31 日（火）に文部科学省からの調査結果公表を受け、平成 30 年度大磯町「全国学力・学習状況調査」結果分析・活用検討委員会を組織し、大磯町における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析してまいりました。このたび、調査結果の報告がまとまりましたので、次のとおりお知らせいたします。

大磯町の【特長】と（課題）

【特長①】『大磯町では、児童・生徒に対して、必要な資質・能力を身につけさせています！』

⇒教科に関する調査の結果から、大磯町は全国及び県の平均正答率と比較して、大きな差は見られませんでした。このことから、大磯町では児童・生徒に対して必要な学力を身につけさせていると考えます。

【特長②】『大磯町では、授業改善の成果が着実に表れています！』

⇒新しい学習指導要領を踏まえ、大磯町では、教師が一方的に知識を伝達するだけの授業ではなく、習得した知識をもとに、児童・生徒がそれをどのように活用し課題解決を図っていくのか自ら考えるような授業を目指していますが、今回の質問紙調査の結果を見ても、「学級の友達との間で（※中学校は「生徒の間で）」話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答する割合が昨年度よりも上昇しており、着実に授業が変わってきていると言えます。

（課題）『学校は、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会をさらに設定する必要があります』

⇒平成 28 年 12 月 21 日に示された中央教育審議会答申において、『(省略) 新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学習指導要領等が学校、家庭、地域の関係者が幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割を果たす（以下、略）』と提言がありました。これを受けて 2020 年度から全面実施される新学習指導要領においては、今まで以上に地域の力を学校の学習指導計画へ反映させていく必要があります。今回、学校質問紙調査において、大磯町の学校は「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行っている」ということが明確となりましたが、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を地域とともに目指していく必要が求められています。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一

側面に過ぎないことに留意して、教育施策・教育活動の改善に努めてまいります。保護者・地域の皆様には、大磯町の児童生徒の健やかな成長のため、今後も学校教育へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

1 教科に関する調査の結果から

【小学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町ではA・B問題ともに、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較しても、児童に対して身に付けさせるべき学力について指導していると言えます。

学習指導要領の領域等でみると、A・B問題の「話すこと・聞くこと」については、全国や県の平均正答率と同程度もしくはやや上回る結果となりました。

その一方で、B問題の「読むこと」については、やや課題がみられ、無回答率についても高いものとなりました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す【A問題】 ・日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う【A問題】 ・話し合いの参加者として、質問の意図を捉える【B問題】 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う「せつ極的（積極的）」【A問題】 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いや、文脈の中で使い分けに着目できるような指導を行っていく。 ・何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのか、という目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読む活動を取り入れていく。

【小学校算数】

今回出題された学習内容について、大磯町ではA・B問題ともに、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較しても、児童に対して身に付けさせるべき資質・能力について指導していると言えます。

学習指導要領の領域等でみると、A問題の「数量関係」及び、B問題の「図形」について課題が残る結果となりました。

また、B問題については、総じて無回答率が全国や県と比較して高い結果となりました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none"> ・異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している【A問題】 ・円周率の意味について理解している【A問題】 ・示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる【B問題】 	<ul style="list-style-type: none"> ・1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる【A問題】 ・合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・数直線上の数量の対応関係や大小関係を的確に捉えることができるような指導を行っていく。
- ・合同な正三角形で敷き詰められたうろこ模様の中に、正三角形四つでできている図形である平行四辺形を見だし、平行四辺形であることを図形の構成要素や性質を基に説明するような活動を取り入れていく。

【小学校理科】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較して、児童に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。

学習指導要領の区分等でみると、B区分（生命・地球）については、全国や県の平均正答率と同程度かやや上回る結果となりました。一方、A区分（物質・エネルギー）については、課題が見られました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">・人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる・堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している・より妥当な考えをつくり出すために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる。	<ul style="list-style-type: none">・実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる・物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・実験方法を構想する前に予想したことを話し合う場面を取り入れ、自分と異なる予想をした他者の予想が確かめられた場合に得られる結果の見通しを共有するような学習活動を取り入れていく。
- ・学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにするために、既習の内容や生活体験と関係付けて話し合う場を設定し、提示された自然の事物・現象を捉えることができるような指導を行っていく。また、食塩水の事実及び分からないことはそれぞれ何かを話し合い、明らかにするなどのような学習活動を取り入れていく。

【中学校国語】

今回出題された学習内容について、大磯町では、A・B問題ともに、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較して、生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。

学習指導要領の領域等でみると、A問題の「読むこと」については、やや課題が見られました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none">・段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする【A問題】・古典に表れたものの見方や考え方を理解する【A問題】・話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する【B問題】	<ul style="list-style-type: none">・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える【A問題】・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・ 図表が文章のどの部分と関連しているかを確認し、図表の役割について考えたり、文章の内容を捉えるためにどのような図表が必要かを考えたりするなどのような学習活動を取り入れていく。
- ・ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、文章の理解を深めることができるように指導をしながら、作品の形態や特徴を生かしながら文学的な文章を朗読するなどのような学習活動を取り入れていく。

【中学校数学】

今回出題された学習内容について、大磯町では、A・B問題ともに、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較して、生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。

学習指導要領の領域等でみると、B問題の「関数」及び「資料の活用」について課題がみられました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 数直線上に示された負の整数を読み取ることができる【A問題】 ・ 文字式に数を代入して式の値を求めることができる【A問題】 ・ 最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している【A問題】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる【B問題】 ・ グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる【B問題】

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・ データを収集し、資料の傾向を捉えて問題解決をする際、問題解決の過程を振り返り、改善の手立てや対策を見いだすような場面を設定していく。
- ・ 問題解決において用いるグラフを事象に即して捉え直す活動を取り入れ、グラフの交点を事象に即して解釈できるような指導を行っていく。

【中学校理科】

今回出題された学習内容について、大磯町では、全国及び県の平均正答率と比較して大きな差は見られませんでした。大磯町の学校は、全国や県と比較して、生徒に対して身に付けさせるべき学力をきちんと指導していると言えます。

学習指導要領の分野等でみると、第2分野の生物的領域について課題が見られました。

主な特長と課題

特長（習得の状況が良好であると判断できるもの）	課題（指導の改善・充実が求められるもの）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている ・ アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている ・ 探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとしている。アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる ・ 発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる

授業の充実に向けて取り組んでいくこと

- ・ 2種類の抵抗器に加える電圧と流れる電流の大きさを測定する実験を行い、その結果をグラフに表し、電流と電圧との関係を見いだすような活動を取り入れていく。
- ・ 縦軸を従属変数、横軸を独立変数として観察・実験の結果をグラフに表すような指導を行っていく。また、複数のグラフを比較して、変化の特徴や規則性を見いだすような学習場面を設定していく。

2 児童生徒質問紙調査の結果から

【小学校】

「人の役に立つ人間になりたいと思う」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合が昨年度よりも高くなりました。また、「理科の授業の内容はよく分かる」と回答した割合も、全国及び県の割合と比較して高くなっています。

特別の教科道徳を中心に、児童に対して自己肯定感が高まっていくような指導の充実を図っていくとともに、児童が自らの考えを深めたり、広げたりすることができる授業づくりの工夫を引き続き学校全体で取り組んでいきたいと思ひます。

【中学校】

「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」「生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合が昨年度よりも高くなりました。

その一方で、「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」と回答した割合は昨年度よりも低くなりました。

地域がもつ教育力を借りながら、社会に開かれた教育課程の実現をさらに目指していくとともに、生徒自身が自分の考えを聞き手に伝わるように工夫できるような授業づくりを目指していきたいと思ひます。

3 家庭や地域の皆様にお知らせしたいこと

- ・ 児童生徒質問紙の質問への回答状況と各教科の調査結果を比較すると、次のような児童生徒に、全ての教科で平均正答率が高い傾向がみられます。(必ずしも因果関係を示したものではありません。)

【小学校】

- 家で、自分で計画を立てて勉強している。
- 家で、学校の授業の予習・復習をしている。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う。
- 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。

【中学校】

- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る。(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)
- 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
- 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。

※今回、携帯電話やスマートフォンの利用に関する質問項目はありませんでしたが、(お子様が携帯電話やスマートフォンを利用している場合は)引き続きご家庭においても、携帯電話やスマートフォンの適切な利用に関してお子様と話し合っただけだと思います。

4 大磯町教育委員会から

町教育委員会では、本調査の分析結果を各学校に提供しました。学校では、町全体の結果をもとに、各校の詳細な結果の分析と考察を進め、成果と課題を明確にしました。今後の教育活動において、成果についてはさらなる充実と、課題については全校挙げての解決に取り組んでまいります。

今回の調査結果から、町は全国・県と同程度の学力を児童・生徒へ概ね指導できていることが明らかとなりました。その一方で、教科の領域によっては課題が見られる内容もありました。これについては、全ての教員が真摯に受け止め、改善に向けて取り組んでまいりたいと思います。

町教育委員会では、平成25年度から4年間、神奈川県教育委員会より「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」を受託し、研究を進めてまいりました。そして、この成果を一時的なものとしてせずこの先も継続させていくために、平成29年度から「大磯学びづくり研究推進事業」を拡充し、町内の全小・中学校が研究推進校として、様々な研究・研修会を企画及び実施することを通じて、教員の資質向上と共に日常の授業の改善・充実に努めているところです。

また、「日常授業の改善・充実のための幼・小・中相互訪問事業」を立ち上げ、校種の異なる教員が校区の園・学校を訪問し、普段の授業を見せ合いながら、授業づくりについて考える機会を整えております。

上記事業と共に、2020年度より小学校から全面実施となる新しい学習指導要領を踏まえた授業改善に向けて、町教育委員会としても、全ての学校・教職員に対して必要な研修等の機会を設けていくとともに、必要な支援を行ってまいります。

最後になりますが、町は平成27年に大磯町教育大綱を策定いたしました。その基本理念である、「いのち」「こころ」(~自らの可能性を求め、新しい時代を心豊かに生きる人づくり~)を輝かせる三つの力(「知力」「体力」「共感力」)の育成を目指していくために、教育委員会と学校は、家庭や地域との連携を図り、協力をいただきながら、未来を生きる大磯町の子どもたちのために必要な力を育成していきたいと思っております。今後も学校教育へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。